

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立肥前中学校											
1 前年度 評価結果の概要	・各評価項目については、概ね達成できた。学力向上や睡眠の大切さなど取り組みが不十分なところについては、見直しをもって改善できるように取り組んでいきたい。 ・生徒が自信をもって「将来の夢や目標を持っている」とかいとうできるよう、年間を通したキャリア教育の充実に努めていく必要がある。 ・各担当や各担任が連携を密にし、いじめの早期発見や生徒の意識の高揚を図るよう「いじめの防止に組織的対応ができている」と回答した職員の割合が、86%から60%に低下した。来年度は学年及び学年間の連携を強化していく必要がある。											
2 学校教育目標	志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成											
3 本年度の重点目標	Ⅰ 確かな学力の育成 ⇒①「学ぶ力」を育成する教師の授業力の向上 ②生徒一人一人の夢や目標を育むための教育活動の推進 Ⅱ たくましい体力の育成 ⇒①食育の充実と健康の保持増進 ②体力・運動能力の向上 Ⅲ 思いやりの心の育成 ⇒①いじめを生まない土壌づくりと自他を大切にする心の育成 ②ボランティア活動の充実とボランティア精神の育成 Ⅳ 生徒指導体制の充実 ⇒①自己指導能力の育成 ②発達支持、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止 Ⅴ 保護者連携・小中連携 ⇒①積極的な情報発信 ②共に育てるという雰囲気醸成 Ⅵ 働き方改革とメンタルヘルス ⇒①働き方改革の推進 ②メンタルヘルス対策											
4 重点取組内容・成果指標	中間評価		5 最終評価									
(1)共通評価項目												
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○「学ぶ力」を育成する授業づくりに努め、学力の向上を図る。	○「先生はICTを活用した授業を行っている」と回答した生徒80%以上。	・1人1台端末を活用した授業改善に取り組む、研究を進める。 ・全員による研究授業と授業研究会を行う。									
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートで、「人の嫌がること言ったり、しりしないやいのもの教育についての取組は役に立っている」「積極的にボランティアに取り組んでいる」と回答した生徒80%以上。	・計画的で継続的な道徳科の授業づくりをを実施する。 ・人権・同和教育、平和教育、命の教育、DV予防教育などを実施する。 ・生徒会を中心としたボランティア活動に積極的に取り組む。									
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止、対応についての共通理解を図り、発知時には組織的対応ができていると回答した教員の割合が80%以上。	・学年の生徒指導部会を充実させ、学年で迅速に対応できる体制をつくる。 ・生活アンケートを定期的に実施する。 ・開発的生徒指導を取り入れ、生徒に活躍の場を与え、自己肯定感を育てる。									
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上。	・キャリアプランの作成とキャリアパスポートの記入による、見通し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の長所に気づかせる。									
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒の割合を80%以上。	・生活習慣アンケートの実施する。(運動・生活リズム・食事・安全について) ・毎日の健康観察を行い、自分の健康状態に関心を持つようにする。 ・食に関する取り組み(おにぎり弁当の日)を実施する。 ・生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信する。									
	○体力・運動能力の向上	○「スポーツをすることは楽しい」と回答した生徒を80%以上。 ○「体育大会やクラスマッチなどの体育的な行事での出番・役割を責任もって行った」と回答した生徒を80%以上。	・体育大会やクラスマッチなどの体育的行事の充実を図る。 ・計画的な部活動運営と指導力の向上を図る。									
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日に定時退勤日を設定する。 ・業務記録票により毎月の時間外勤務の状況を可視化し、各自改善を図る。 ・文書のペーパーレス化を図る。									
	○メンタルヘルス対策	○「心のセルフチェックシステム」であまりストレスを抱えていないという結果の教員80%以上。	・メンタルヘルス対策健康に関する情報提供やストレスチェックの実施、管理職等による支援体制の充実などを実施する。									
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する研修と実践の充実	○「支援を要する生徒に対して支援ができている」と回答した教員の割合が80%以上。	・個別の支援体制計画を作成し、効果的な支援を行うためにも、随時情報交換を行う。また、支援を要する生徒について全職員が共通理解し、校内全体での支援を図れるように努める。 ・児童生徒の実態により、関係機関や相談等の他機関などとの連携を図りながら支援を行う。 ・保護者からの相談には、随時対応できるようにする。									
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目												
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合を80%以上にする。	・はなまる連絡帳やホームページの更新頻度を高め、学校行事や生徒の様子を積極的に発信する。 ・地域の人的・物的資源(地域やPTAとの連携)を活用した教育活動実践する。									
○小中連携	○小中連携による共通理解と共通実践	○学校アンケートで、「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めていると回答した保護者を80%以上にする。	・肥前中校区教育研究会を充実させ、小中連携した取組を行う。 ・小中連携の取組を積極的に保護者に発信する。									
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育												
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・											